

1. いわてレッドデータブック（2025年版）作成の経緯と目的

(1) 経緯と目的

岩手県では 2001 年 3 月、「環境王国いわて」の実現を目指し、多様で豊かな環境の保全を図るため、以下のような観点から、生息・生育する希少な動植物について取りまとめた「いわてレッドデータブック」を発刊しました。

- ・岩手県における絶滅のおそれがある種の現状を把握し、その保護対策に資すること。
- ・県民一人一人が、生物多様性の確保について理解を深め、日々の自然との接し方についての指針の一つとして活用されること。
- ・環境アセスメントや各種開発行為の計画や実施に当たっての生物多様性確保対策の基礎資料として活用されること。

その後、東日本大震災津波の影響などを踏まえ、約 10 年後の 2014 年 3 月に改定した「いわてレッドデータブック（2014 年版）」を発刊しました。2014 年版発行後も気候変動や開発、大規模災害に伴う復旧工事等による生息状況の変化が考えられたことから、令和元年 10 月に「いわてレッドデータブック改訂検討委員会」を設置し、改定の検討に着手。約 5 年の検討と調査を経て、この度、「いわてレッドデータブック（2025 年版）」を発刊しました。

(2) 改定の概要

ア 掲載種の分類群とカテゴリー区分を環境省レッドリスト2020に準拠

- ・蘚苔類、藻類、その他無脊椎動物を追加しました。藻類は環境省のレッドリストに掲載されている淡水性藻類のうち、県内で記録があるもの、または分布可能性のあるものを選定しました。
- ・その他節足動物を削除し、この分類群に属していた種はその他無脊椎動物へ変更しました。

イ 掲載種数の増加

- ・調査結果を反映させた結果、掲載種数は141種増加し、1,236種となりました。掲載種数増加は、自然災害や開発に伴う生息生育環境の変化のほか、分類群として蘚苔類や藻類などを追加したことが要因です。
- ・新たに絶滅した種となったのは、ヤマキチョウ（昆虫）などで、前回から5種増となりました。
- ・新たに絶滅危惧種となったのは、キバナシャクナゲなどで（植物）、前回から101種増となりました。

